

HEPTATHELA

VOL. 5, No. 1

1991

九州クモの会
Spider Study Group of Kyushu

目 次

	頁
ハウシグモ雑記	八木沼 健 夫 1~7
熊本県のカニグモ・エビグモ類	入 江 照 雄 8~14
日本のクモの新記録— <i>Dyschiriognatha dentata</i> Chu et Wen	
ミナミヨツボシヒメアシナガグモ(新称)—...	大 熊 千代子 15~18

(原稿到着順)

ホウシグモ雑記

八木沼健夫

大阪市東住吉区針中野3-7-14

Some notes on Japanese zodariid spiders

Takeo YAGINUMA

3-7-14, Harinakano, Higashisumiyoshi-ku,

Osaka, 546 Japan

日本のホウシグモ科のクモは、BÖSENBERG & STRAND(1906)により記載されたドウシグモが古くから知られていたが、ホウシグモが記録されたのは、岸田久吉(1935)が新種として *Storena hoosi* を発表したのに始まる。記載の上からクモを想像するだけで、その正体はわからなかった。その後岸田氏の遺稿中に未発表のホウシグモの図が見つかり、その姿を知ることができたので、当時の編集者が氏の追悼号 (*Atypus*, 49/50, 1950) に掲げた。図のうらには *Storena hoosi* KISHIDA, 1932. Holotype ♀. Hoosigumo. S. Kyushu (Kagoshima - Ken) と記されてある。採集された1924年8月以来採集例を聞かなかった。

その後、九州のどこかで発見されることを期待していたところ、資源科学研究所による九州南部の地表・地中の動物相の調査(1959-1960)において、北沢右三氏の採集された霧島山でのクモの採集品の同定を依頼された際、その中からホウシグモの♀y, ♂yを見出した。これが日本で第2回目の記録であり、筆者は初めて実物に接することができた。最初の発見以来実に38年ぶりのことである。当時としては特筆に値する発見なので、筆者(1962)はその再記載(英文)と写真を発表するとともに、図鑑にも図を掲げた。その後は続いて九州からは同種が、琉球列島からは同属別種が発見された。別種については♀♂そろわなかったため、発表の際は *Storena* sp. として来た。

1990年に小野展嗣・谷川明男氏らの努力により、ホウシグモ属 *Langbiana* (旧 *Storena*) 4種の記載が発表され、日本のホウシグモ類が明らかになったことは喜ばしい。このおかげで *Storena* sp. とされて来たものも一部明らかになり、同定依頼を受け責任を感じて来た筆者もこれで救われた。

ホウシグモに関心を持たれる方もあると思われるので、この機会にこれまでの採集記録やホウシグモに関する雑件を記すこととした。今後の研究の参考になれば幸である。

ホウシグモが九州に産すること、別種が琉球列島に産することから、九州クモの会誌 *Heptathela* に掲載していただくことにした。

本篇をまとめるに当たり、ホウシグモ類を明らかにされた小野・谷川両氏に感謝するとともに、標本をお借りした垂水有三氏、田中穂積氏、分布についてご教示を得た新海栄一氏、千国安之輔氏に、また研究上お世話になった小野展嗣氏に厚くお礼申し上げる。

ホウシグモ類採集記録

本種は日本のクモの重要種の一つであり、「クモの学名と和名」(1990, 九大出版会)の主要クモの発見史に入れるべきであったが、当時資料が十分整わなかったため掲載しなかった。ここにそれを補う意味で取り上げる。

今日まで各地でホウシグモの採集記録が断片的に散見せられるが、今後の研究者の便宜のため、すでに発表されたもの、未発表であるが筆者の同定したものや筆者のもとに保管されているもの、採集者からの通信で確実なものなど筆者の知り得たものをまとめて掲げておく。小野展嗣・谷川明男両氏の研究に使用されたものは、論文に詳記されているので省く。最初の氏名は採集者、次に採集年月日を発見順に示す。発表された文献は〔 〕内に示してあるから巻末の文献表と照合されたい。

筆者の未だ検していない標本や、文献の見落としや掲載もれもあるかも知れないので、それらについてご教示下さるようお願いする。地名は採集者のメモによる。

ホウシグモ *Langbiana hoosi* (KISHIDA, 1935)

1. 岸田久吉, 1924. 8. 一. 鹿児島県. ♀. (1924年夏, 鹿児島県下での採集品の中にあつた由であるが, 詳細なデータは不明。標本は現存しない。図は *Atypus* (49/50) 1950 にある。
〔岸田久吉, 1935〕〔八木沼健夫, 1954, 1960 - 1983, 1961, 1962〕
2. 北沢右三, 1962. 8. 22. 霧島山, 600 m, ♀y; 900 m, ♂y.
標本 ♀y は現在国立科学博物館に保管(八木沼寄贈, 1971. 10. 11)。♂y は新日本動物図鑑(1965)および動物系統分類学, 7中(A)(1966)の図の資料になる。標本はフィンランドの LEHTINEN が1981年8月19日に大阪を訪れた際, 持ち帰ったまま。
〔八木沼健夫, 1962b, c〕〔別府義昭, 1971〕〔八木沼健夫, 1986〕
3. 石野田辰夫, 1966. 10. 10. 霧島山御池東側, 2♀; 同 白鳥保養所, ♀y.
4. 石野田辰夫, 1967. 7. 27. 同 白鳥保養所, ♀y.
5. 柳 英明, 1967. 7. 27. 同上, ♀.
6. 浜田竜一, 1967. 5. 20. 熊本県水俣市, ♀♂. (八木沼健夫, 1968)
7. 石野田辰夫, 1968. 6. 2. 霧島山御池西側, ♀, 2♂.
3 - 7 は〔石野田辰夫, 1969〕〔石野田辰夫・築地満男, 1969〕
8. 入江照雄, 1970. 8. 21. 霧島神宮, ♂y. 八木沼保管。標本は八木沼著「原色日本クモ類図鑑」(1986)の原色図の資料となる。同書の部分図は八木沼(1962b)による。
9. 田中穂積, 1971. 5. 27. 霧島神宮, ♂♀多数。内1♀1♂は八木沼保管。他は田中氏保管。
10. 田中穂積, 1971. 5. 28. 鹿児島県佐多岬伊佐敷, 2♂. 田中氏保管。
11. 西川喜朗・垂水有三, 1971. 7. 25 ~ 8. 1. 鹿児島県えびの町, 牧岡町, 高原町. ♂y ♀y 多数。
追手門学院大学生物学研究室保管。〔八木沼健夫・西川喜朗, 1972〕
12. 千国安之輔, 1972. 5. 20. 霧島山えびの原, 2♀. 千国氏保管。〔千国安之輔, 1989の図鑑の
写真資料となる〕

13. 新海栄一, 1973. 7. 31. 鹿児島県日置郡吹上町, 4 ♀, 4 y.
14. 新海栄一, 1983. 8. 31. 霧島東神社, ♀.
15. 新海栄一, 1983. 8. 31. 霧島山御池, 2 ♀, 2 ♂ y, 3 y.
16. 新海栄一, 1989. 8. 21. 宮崎県えびの市白鳥神社, 2 y.
17. 新海栄一, 1989. 8. 21. 鹿児島県入来町關牟田池, 2 ♀ y, 3 ♂ y.

標本新海氏保管。

ヒアシホウシグモ *Langbiana fulvipes* ONO et TANIKAWA, 1990

1. 田中穂積, 1971. 5. 27. 西表島竹富町カンピレーの滝, 4 ♀, 3 ♂, 4 y, 内1 ♀ 1 ♂ 八木沼, 他は田中氏保管。
2. 下謝名松栄, 1973. 8. 7. 西表島古見林, ♂ ♀, 八木沼保管。
3. 塚口茂彦, 1978. 9. 9. 石垣島石垣市米原, ♀, 田中氏保管。

ヤエヤマホウシグモ *Langbiana shimojanai* ONO et TANIKAWA, 1990

1. 下謝名松栄, 1960. 6. 6. 沖縄, ♀ y. [下謝名, 1963] [八木沼, 1964] *Storena* sp. とあり。ホウシグモ類では南西諸島での初記録。
2. 下謝名松栄, 1964. 7. 一. 沖縄, ♀ y. 八木沼保管. [八木沼, 1964, 写真あり] ホウシグモ一種 *Storena* sp. とあり。
3. 下謝名松栄, 1964. 8. 17~18. 西表島, ♂, 八木沼保管. [八木沼, 1964] [下謝名, 1966] 本種の♂の最初の記録。上記1-3 [下謝名, 1967]

[谷川明男, 1989] にホウシグモ2種とあるのは, 上記2種である。

四国のホウシグモ

従来九州南部から南西諸島にかけてホウシグモ類が採集されたが, 四国での発見は注目すべきである。

垂水有三, 1868. 8. 5. 四国香川県大川郡長尾町多和, 大窪寺(四国八十八ヶ所の88番目の札所) ♀. [八木沼, 1970 b] 分布資料にホウシグモ *Storena hoosi* と記されているが, 別種のものである。アマミホウシグモ *Langbiana sadamotoi* の斑紋に似ている。八木沼保管。検討中。♂の発見が望まれる。

過去の記録にある仮称のホウシグモ

同定当時, 正確な学名が決定しないため, 今後の注意を喚起する意味で仮称を付されたものがいくつかある。それらのうち小野・谷川氏の論文により明らかになったものもある。

1. タイワンホウシグモ *Storeana* sp.

筆者の用いたタイワンホウシグモは, 腹背に3対の白斑(液浸での色)を持つホウシグモで, 過去のリスト(1970, 1977)に記した種である。また八木沼(1964)の南西諸島のクモ(写真あり)に記したのも同種であり, いずれも *L. shimojanai* である。和名にタイワンを付したのは, 下謝名氏の南西諸島の標本を見る以前に, 台湾産のものを見たからである。台湾のクモは大分前になり多くの人の採集品を見ているが, 今となつてはその採集者・産地・採集年月日はわからない。その後下謝名氏が沖縄で採集されたので *shimojanai* として献名を予定していた。今回たまたま *L. shimojanai* と命名されたので嬉しく思っている。

本稿執筆中に、台湾に出張研究中の西川喜朗氏(1991.5.22付)から、台湾卓社大山でトラップによりハウシグモの一種がとれたとのたよりがあった。台湾にいたることが、これでうらづけられる。

2. タイワンのハウシグモとヤエヤマのハウシグモ

大久保襄(1973)の報文中に、台湾のものに白斑あり、八重山のものに白斑がないとある点から前者は *L. shimojanai*, 後者は *L. fulvipes* と推定する。

種名不明・疑問のハウシグモ

報文中に *Storena* sp., あるいは仮称を付したものがあり、記述もなく標本も見えていないか、あるいは写真のみのもの、標本を見ても幼体のため、種のはっきりしないものがある。

1. *Storena* sp. ハウシグモの一種。分布として西表・石垣・沖縄を記すが、種は不明。〔坂口佳史, 1961〕
2. *Storena* (?) sp. 1♀西表島とあるのみで種は不明。〔大井良次(1963a, 1963b)〕
3. *Storena* sp. 下謝名松栄, 1963. 8. 一. 石垣島, 2♀y, 腹背正中線に沿って、かすかな小白斑がたてに並ぶ。既知種の何かの幼体かも知れない。標本は八木沼保管。
4. *Storena* sp. ハウシグモの一種。下謝名松栄, 1965. 6. 26, 沖縄知花; 下謝名松栄, 1965. 8. 8. 西表島白浜。台湾ハウシグモと仮称されているからヤエヤマハウシグモと思われるが、魚釣島のはヤハズハウシグモと仮称され、台湾ハウシグモとは異ると記されている。魚釣島のは写真からヤエヤマハウシグモに見えるが、似た斑紋を持つ別種かも知れない。現物を見えていないから疑問として残しておく。〔池原貞雄・下謝名松栄, 1971〕

ハウシグモ類の科・属・和名

科名: ハウシグモやドウシグモを含む科としては、古くから今日まで *Zodariidae* が用いられて来た。岸田久吉(1930a, 1930b)は和名をゾダリオオン科としたが、岸田(1935)はこれをホウシグモ科(のちにハウシグモ科)と改めた。

科の学名では岸田(1959, 1966)は *Zodariidae* を *Storenidae* におきかえた。*Storenidae* は亜科 *Storeninae* を引き上げたものと思われるが、岸田以外にこの科名を採用した人を知らない。現在は *Zodariidae* ハウシグモ科として安定している。

属名: ごく最近までは *Storena* が用いられ、多数の種がこの属のもとに記載されたが、BOSMANS & HOVE(1986), BOSMANS & HILLYARD(1990)の検討により、今までの *Storena* の大部分が *Langbiana* におかれた。小野展嗣(1983)もネパールのハウシグモ発表に際しては、*Storena* を用いたが、1990年の論文では新しく提案された *Langbiana* を採用している。詳細については上記論文を参照されたい。*Storena* に関しては種々の問題があるがここにはふれない。

和名: 岸田久吉氏談によると、このクモの和名としてオデコグモ、ヒョットコグモ、ボウズグモ、ニュードウグモなど候補に上ったが、結局上品なホウシ(法師)グモとされたとのことである。これらの一部は小松栄(1936), 岸田久吉(1935), 八木沼健夫・平嶋義広・大熊千代子(1990)に記載されている。

科の特徴の疑問点

拙著図鑑(旧・新とも)には *Zodariidae* ホウシグモ科の特徴の一つとして“外顎なし”となっている。*Zodariidae* に“外顎なし”としたのは、まだホウシグモを見ない頃 PETRUNKEVITCH (1928, 1939) および岸田久吉(1930b, 1966)の検索表中にあるからで、“外顎なし”の条項のもとに *Zodariidae* がおかれてあり、旧版においては科の特徴としてこれを引用したのである。

ところが筆者の種の再記載(1962b)では“外顎あり”となっているのは、筆者の検した標本に明らかに外顎があり、また岸田(1935)の原記載に“外顎あり”となっているからである。この点に矛盾を感じたが、PETRUNKEVITCH や岸田がなぜ科の特徴として“外顎なし”としたのかわからない。岸田の最初の検索表は1930年、種の記載は1935年、新しい検索表は1966年である点不可解である。

筆者は図鑑の新版(1986)に際して、科の特徴は新しいLEVI (1982)の分類を参照したものであり、LEVI は“外顎あり”としているにかかわらず、印刷面では“外顎なし”と旧版のまま残ってしまった。今さら言いわけにならないが、多分訂正もれであったと思われる。外顎の有無が分類上どの程度の意味を持つかわからないが“ある”と“なし”では反対である。

摘 要

小野展嗣・谷川明男(1990)のホウシグモの論文のあとをうけて、今まで八木沼の知見を蛇足として次の件について記した。

1. ホウシグモ類の採集記録
2. 過去に記録のある仮称のホウシグモ
3. 種不明のホウシグモ
4. ホウシグモの科・属・和名
5. 科の特徴の疑問点

文 献

- 別府 義昭, 1971. 鹿児島県の真正蜘蛛類相. 東亜蜘蛛学会. pp. 1-50. pls. 1-2 (ホウシグモの写真あり)
- BOSMANS, R. & M. van Hove, 1986. A revision of the Afrotropical representatives of the genus *Langbiana* HOGG (Araneae: *Zodariidae*). *Bull. Brit. arachnol. Soc.*, 7: 17-28.
- BOSMANS, R. & P. HILLYARD, 1990. Spiders of the family *Zodariidae* from Sulawesi, Indonesia (Arachnida: Araneae: *Zodariidae*). *Bull. Brit. arachnol. Soc.*, 8: 147-160.

- 千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. pp. 1-306.
- 池原貞雄・下謝名松栄, 1971. 尖閣列島の陸生動物. 尖閣列島学術調査報告書. 沖縄. pp. 85-140.
- 石野田辰夫, 1969. ホウシグモ *Storena hoosi* KISHIDA について. *Atypus*, (49/50): 71-72.
- 石野田辰夫・築地満男, 1969. 霧島山の蜘蛛類. 霧島山総合調査報告書. 霧島山総合研究会. pp. 285-298.
- 岸田 久吉, 1930 a. 蜘蛛目新分類体系. *Lansania*, 2: 33-43.
- 岸田 久吉, 1930 b. 蜘蛛目科名検索表. *Lansania*, 2: 115-123.
- 岸田 久吉, 1935. 日本産ホフシグモ科に就て. 紀州動植物, 2: 1-5.
- (岸田久吉), 1950. 遺稿中のホウシグモの図. *Atypus*, (49/50) 扉
- 岸田 久吉, 1959. 無角綱. 沖縄産動物目録. 沖縄生物教育研究会. pp. 367-376. 那覇市.
- 岸田 久吉, 1966. 蜘蛛目の科分類. 自刊, pp. 1-23.
- 小松 栄, 1936. 原色大日本蜘蛛類図説(上), pp. 1-192. 蘭山会, 東京.
- LEVI, H. W., 1982. Arachnida, Chelicerata. Arthropoda. Synopsis and Classification of Living Organisms. pp. 71-96. McGraw-Hill Book Co.
- 大井 良次, 1963 a. 大阪市立大学探検部採集の琉球列島産真正蜘蛛類. 八重山群島学術調査報告書. 大阪. pp. 201-205.
- 大井 良次, 1963 b. 沖縄本島・西表島のクモ. *Atypus*, (29): 15-17.
- 大久保 襄, 1973. 八重山群島のクモ. *Atypus*, (60): 9-10.
- ONO, H. 1983. Zodariidae aus dem Nepal-Himalaya. I. Neue Arten der Gattung *Storena* WALCKENAER, 1805 (Arachnida: Araneae). *Senckenberg biol.* 63: 211-217.
- ONO, H. & A. TANIKAWA, 1990. A revision of the Japanese spiders of the genus *Langbiana* (Araneae, Zodariidae). *Mem. natr. Sci. Mus., Tokyo*, (23): 101-112.
- PETRUNKOVITCH, A., 1928. Systema Aranearum. *Trans. Connecticut Acad. Arts & Sci.*, 29: 1-270.
- PETRUNKOVITCH, A., 1939. Catalogue of American Spiders. *Trans Connecticut Acad. Arts & Sci.*, 33: 133-338.
- 坂口 佳史, 1961. 八重山群島(石垣島・竹富島・西表島)と沖縄の真正クモ類. 近畿大学農学部: 八重山学術調査報告書. pp. 51-65. 農学部自治会生物研究会. 大阪.
- 下謝名松栄, 1963. 沖縄本島のクモ(II), *Atypus*, (29): 23-25.
- 下謝名松栄, 1966. 先島(石垣島・西表島)の真正蜘蛛類. *Atypus*, (41/42): 24-36.
- 下謝名松栄, 1967. 琉球列島のクモ相について. *Biol. Mag. Okinawa*, 4: 16-25.
- 新海栄一・高野伸二, 1984. フィールド図鑑(クモ). pp. 1-205. 東海大出版会. 東京.
- 谷川 明男, 1989. 西表島のクモ類採集記録 I. *Kishidaia*, (59): 25-44.
- 八木沼健夫, 1954. 日本産真正蜘蛛類概説(3). *Atypus*, (7): 13-20.

- 八木沼健夫, 1960-1983. 原色日本蜘蛛類大図鑑。(ホウシグモの図なく記事のみ). 保育社. 大阪.
(1960, 1965, 1968, 1969, 1971) i-vi+1-197, (1975, 1978, 1983) i-vi+1-206
- 八木沼健夫, 1961. 日本産真正蜘蛛類の科・属・種の検討. pp. 1-45. 東亜蜘蛛学会. 大阪.
- YAGINUMA, T., 1962a. The Spider Fauna of Japan. pp. 1-73, pls.1-2 + pp.1-18.
Arachnological Soc. East Asia, Osaka.
- 八木沼健夫, 1962b. 大隅半島南部・高隈山・霧島山の蜘蛛. 資源研彙報, (56/57): 129-136.
- 八木沼健夫, 1962c. 分布資料. *Atypus*, (25): 12.
- 八木沼健夫, 1964. 南西諸島のクモ. 南西諸島学術調査報告(予報). 自然科学篇. pp. 39-47.
関西自然文化研究会, 大阪.
- 八木沼健夫, 1965. 真正蜘蛛目. 新日本動物図鑑(中). 490 pp. 北隆館, 東京.
- 八木沼健夫, 1966. 真正蜘蛛類. 動物系統分類学, 7(中)A. pp. 218-244+261-286.
- 八木沼健夫, 1968. 分布資料. *Atypus*, (46/47): 34.
- 八木沼健夫, 1970a. 日本の真正蜘蛛類相(1970改訂). 国立科博研報, 13: 639-701.
- 八木沼健夫, 1970b. 分布資料. *Atypus*, (54): 27.
- 八木沼健夫, 1977. 日本産真正蜘蛛類目録(1977改訂). *Acta arachnol.*, (sp. no.): 367
- 406.
- 八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. 305pp. 64pls. 保育社, 大阪.
- 八木沼健夫・西川喜朗, 1972. 霧島山の真正蜘蛛類. JIBP主調査地, 霧島山地域の動物相調査
報告-IV. 陸上生態系における動物群集の調査と自然保護の研究(昭和46年度). pp. 59-80.
- 八木沼健夫・平嶋義宏・大熊千代子, 1990. クモの学名と和名-その語源と解説. i-vi+1-287.
九大出版会, 福岡. (1991. 5. 31)

[追記]

この報文脱稿後, ホウシグモ科 Zodariidae の属の検討に関する新しい文献を入手した。これによれば, ホウシグモの新しく提案された属名 *Langbiana* Hogg, 1922 は *Mallinella* STRAND, 1906 のシノニムになるとのことである。ついでにドウシグモの属名 *Doosia* KISHIDA, 1940 は *Asceua* THORELL, 1887 のシノニムになると記されている。従ってこの意見に従うならばホウシグモは *Mallinella hoosi* (KISHIDA, 1935), ドウシグモは *Asceua japonica* (BÖSENBERG et STRAND, 1906) となるわけであるが, ここにはそれらに対する意見は述べず, 紹介するにとどめておく。専門家のご検討をねがう。文献を下さった N. I. PLATNICK, R. JOCQUE 両博士に厚くお礼申し上げる。(1991. 6. 26)

文献: JOCQUE, R., 1991. A generic revision of the spider family
Zodariidae (Araneae). *Bull. Amer. Mus. Nat. Hist.*, (201): 1-160.

熊本県のカニグモ・エビグモ類

入江 照雄

熊本県立菊池農業高等学校

A list of spiders of the families Thomisidae and Philodromidae
in Kumamoto Prefecture, Japan

Teruo IRIE

Kikuchi Agricultural High School, Shisui-machi, Kikuchi-gun, Kumamoto.

1. はじめに

熊本県のクモ相について、1960年より調査を行なってきたが、まだすべての種についての整理が終わっていない。県内のファウナについて、小地域を含め発表されたものとしては、木庭 奏(1958, 1959), 小野 勇ほか(1975), 入江(1982, 1985, 1987), 入江・西川喜朗(1987)などがある。まだ「熊本県の真正クモ類目録」として発表するには資料不足のため、今後、各科またはグループごとに少しずつ整理して報告していく予定である。その第一回目として「熊本県のサラグモ類」(1987, 入江・斎藤 博)を報告した。今回は、カニグモ科・エビグモ科について報告する。

エビグモ類は、現在までに広義のカニグモ科に含まれていたが、最近の分類体系に従い、カニグモ科とエビグモ科に分けて記載する。

本文を草するにあたり、終始変わらぬご指導ご教示を賜っている吉倉 眞博士(熊本大学名誉教授), 八木沼健夫博士(追手門学院大学名誉教授), また、カニグモ・エビグモ類について日頃から種々のご指導ご教示を賜っており、標本の一部を同定していただき、さらに今回の報文の校閲をお願いした小野展嗣博士(国立科学博物館)に対し謹んで感謝の意を表する。なお、貴重な標本をいただいた吉倉 眞, 大塚 勲, 田辺 力の各氏に対し厚くお礼を申し上げる。

2. カニグモ科・エビグモ科の目録

- 属・種の配列は、「原色日本クモ類図鑑」(1986, 八木沼)に従った。
- 採集者(敬称略)名のないものは、すべて著者の採集による。
- ♀は雌, ♂は雄, yは若蛛を表す。

Thomisidae カニグモ科

1. *Xysticus atrimaculata* Bös. et STR. ホンクロボンカニグモ

- 体長: ♀ 8 mm。
- 分布: 本州, 九州。
- 産地: 球磨郡上村白髪岳(3♀ 12-Ⅷ-1979, 甲守 崇)
- 九州での記録は少なく、佐賀県(原記載)のほかは、彦山(福岡県)と熊本県だけのようで

ある。

2. *Xysticus croceus* FOX ヤミイロカニグモ
 - 体長：♀7～8mm。♂5～6mm。
 - 分布：日本全土。
 - 産地：牛深市権現山(1♀ 4-V-1961, 1♀ 26-VII-1971), 阿蘇郡久木野村清水(4♀3♂ 6-VII-1961, 吉倉), 天草町角山(1♀ 28-VII-1965, 1♀ 27-VII-1971), 牛深市戸島(1♀ 30-VII-1965), 球磨郡水上村市房山(1♂ 10-V-1970), 菊池溪谷(1♂ 31-VII-1970, 吉倉。1♂ 14-VI-1978, 2♂ 1-VI-1979, 大塚), 熊本市立田山(2♀ 25-X-1970), 熊本市高平(1♀1♂ VI-1973, 吉倉), 宇土郡三角町大田尾(1♀ 2-1974), 五木村(1♀ 7-VIII-1982, 1♀1♂ 3-VI-1984)
3. *Xysticus saganus* BÖS. et STR. オオヤミイロカニグモ
 - 体長：♀7～8mm。♂5～6mm。
 - 分布：北海道, 本州, 四国, 九州。
 - 産地：阿蘇郡南小国町星和(1♀ 2-VIII-1966), 菊池溪谷(8-X-1978, 西川), 五木村(1♀ 17-X-1983, 1♀ 11-VIII-1984)
4. *Bassaniana decorata* (KARSCH) キハダカニグモ
 - 体長：♀7mm。♂5mm。
 - 分布：北海道, 本州, 四国, 九州。
 - 産地：熊本市(1♀ 10-IV-1958, 吉倉), 阿蘇郡西原村(1♀ 2-XII-1979, 大塚), 天草郡栖本町(1♀1♂ 10-II-1980, 大塚), 菊池溪谷(1♀1♂ 24-II-1980, 大塚)
 - 扁平なクモで, 樹上の樹皮上を徘徊している。樹皮下に営巣し産卵する。
5. *Oxyptila nipponica* ONO ニホンオチバカニグモ (Fig.1～3)
 - 体長：♀2～3mm。♂1.5～2.5mm。
 - 分布：北海道, 本州, 九州。
 - 産地：天草郡姫戸町権現山(1♀ 8-VI-1973, 6♀1♂ 6-IV-1985, 田辺), 阿蘇郡蘇陽町方々野(1♀1♂ 22-VIII, 西川), 鹿本郡植木町(2♀3♂ 29-V-1983, 直海俊一郎), 球磨郡球磨村高沢(3♀ 10-IV-1985, 田辺), 球磨郡水上村市房山(1♀1♂ 27-X-1985, 田辺), 牛深市権現山(1♂ 27-X-1986)
 - 微小なクモで, リター層で見られる。九州では熊本県以外に, 長崎県(原記載), 佐賀県(小野, 1985), 福岡県からの記録がある。
6. *Synaema globosum* (FABRICIUS) フノジグモ
 - 体長：♀6～8mm。♂4～5mm。
 - 分布：北海道, 本州, 四国, 九州。
 - 産地：阿蘇郡久木野村(1♀ 17-VI-1962, 吉倉。1♀1♂ 30-V-1965), 熊本市(1♀ 3-X-1965), 阿蘇郡南小国町満願寺(1♀ 5-VIII-1966), 菊池郡大津町北向山(1♀ 23-X-1972, 2♀ 22-X-1972, 吉倉。1♀ 19-VIII-1973), 山鹿市(1♀ 7-V-

1980), 高森町(1♂ 9-VI-1982, 吉倉), 五木村(1♂ 1-VII-1982, 2♀ 17-K-1983, 2♀ 8-X-1983)

○雌の腹部は黄色または朱色の地に大きな禾の字状の黒斑が目立つ。

7. *Misumenopus kumadai* ONO クマダハナグモ

○体長: ♀ 3.5~4.5 mm。 ♂ 2.5~3.5 mm。

○分布: 本州, 九州, 南西諸島。

○産地: 泉村久連子(1♀1♂ 5-V-1980, 大塚)

○九州本島での採集記録は少なく、福岡県に次ぎ二番目である。

8. *Misumenops tricuspoidatus* (FABRICIUS) ハナグモ

○体長: ♀ 6 mm。 ♂ 4~5 mm。

○分布: 日本全土。

○産地: 宇土郡三角町三角岳(1♀ 6-VII-1958), 阿蘇郡久木野村(2♀ 30-V-1965), 天草町角山(1♀ 28-VII-1965), 南小国町星和(1♀ 2-VIII-1966), 天草郡新和町(1♀ 4-III-1967), 熊本市(1♂ 25-X-1970, 1♀ 20-VII-1971, 1♀ 27-VI-1982, 2♀ 7-VII-1982, 吉倉), 北向山(1♂ 5-XI-1972, 吉倉), 三角町大田尾(1♀ 2-VI-1974), 熊本市北部町西里(2♂ 31-VII-1981, 吉倉), 阿蘇郡高森町(2♀1♂ 9-VI-1982, 吉倉), 球磨郡五木村端海野(1y♂ 17-K-1983)

○緑色の美しいクモで、草木や花の上で普通に見られる。

9. *Pistius undulatus* KARSCH ガザミグモ

○体長: ♀ 8~9 mm。 ♂ 5~6 mm。

○分布: 北海道, 本州, 四国, 九州。

○産地: 熊本市小萩山(1♀ 9-V-1957), 熊本市立田山(7♀2♂ 3-X-1965), 阿蘇郡久木野村(1♀ 19-VI-1966, 吉倉), 久木野村地蔵峠(1♀ 3-XI-1973), 球磨郡上村白髪岳(1♀ 11-II-1979, 大塚), 天草郡松島町合津(1♀ 16-IV-1979), 牛深市権現山(1y 8-VII-1990)

10. *Oxytate stristipes* L. KOCH ワカバグモ

○体長: ♀ 10~12 mm。 ♂ 8~10 mm。

○分布: 日本全土。

○産地: 熊本市小萩山(1♀ 9-V-1957), 八代郡泉村釈迦院(1♀ 9-VI-1957), 天草郡岳町念珠岳(1♀ 23-VII-1965), 南小国町星和(1♀ 2-VIII-1966), 熊本市立田山(1♂ 26-IV-1971, 吉倉), 北向山(1y♂ 22-X-1972, 吉倉), 菊池溪谷(1♀ 10-IV-1979, 大塚, 2♀ 17-K-1983), 熊本市戸島(1♂ 28-IV-1984)

○腹部は細長く、体全体が緑色の美しいクモ。

11. *Tmarus piger* (WALCKENAER) トラフカニグモ

○体長: ♀ 6~7 mm。 ♂ 5~6 mm。

○分布: 北海道, 本州, 四国, 九州。

- 産地：南小国町満願寺(1y 5-VII-1966), 牛深市片島(1♀ 17-VI-1971), 阿蘇町笠石の穴(1♀ 19-X-1975), 菊池溪谷(1♀ 1y 24-K-1981), 五木村(1♀ 1y 1-VIII-1982, 11-K-1982)
 - 腹部は長く, 後方で幅が広がり後端が上方にとがる。
12. *Tmarus rimosus* PAIK セマルトラフカニグモ (Figs. 4~6)
- 体長：♀ 6~7 mm。♂ 5~6 mm。
 - 分布：北海道, 本州, 九州。
 - 産地：菊池溪谷(1♂ 29-VII-1970, 吉倉), 球磨郡錦町(1♀ 2-VIII-1970, 吉倉), 北向山(1♂ 29-VII-1970, 吉倉), 五木村(1♀ 2♂ 1-VIII-1982, 1♀ 10-K-1982)
 - 前種によく似ていて混合されるが, 腹部の後端上部がとがらず, 丸みがあることで区別できる。九州での記録は少なく, 大分県と熊本県だけのようである。
13. *Runcinia albostrata* BÖS. et STR. シロスジグモ
- 体長：♀ 9 mm。
 - 分布：本州, 四国, 九州。
 - 産地：牛深市砂月(1♀ 11-VI-1971), 牛深市法々島(1♀ 1♂ 17-VI-1971, 吉倉・入江), 牛深市片島(1♀ 4-VIII-1973), 松島町合津(1♀ 1♂ 25-V-1983), 牛深市権現山(1y 8-VII-1990)
14. *Boliscus tuberculatus* (SIMON) イボカニグモ
- 体長：♀ 3.5~4.5 mm。♂ 1.5~2.0 mm。
 - 分布：本州, 四国, 九州, 伊豆七島, 南西諸島。
 - 産地：上益城郡御船町(1y 12-VII-1967), 水俣市(1♀ 2♂ 25-K-1967, 浜田竜一)
 - 腹部にイボ状突起が多数散しているのが特徴。
15. *Thomisus labefactus* KARSCH アズチグモ
- 体長：♀ 6~8 mm。♂ 2~3 mm。
 - 分布：本州, 四国, 九州, 南西諸島。
 - 産地：牛深市戸島(3♀ 2♂ 30-VII-1965), 天草郡新和町大多尾(2♂ 4-VIII-1967), 熊本市立田山(1♂ 31-VII-1970, 吉倉), 牛深市権現山(1♀ 19-VIII-1972), 三角町大田尾(1♀ 2-VI-1974), 松島町老岳(1♀ 15-IV-1979, 大塚), 天草郡御所浦町(1♀ 12-VII-1978), 松島町合津(1 16-IV-1979), 天草郡倉岳町荒平(1♀ 11-VIII-1982), 牛深市権現山(1♂ 8-VII-1990)
16. *Lysiteles coronatus* (GRUBE) [= *Synaema takashimai* (UYEMURA)]
アマギエビスグモ
- 体長：♀ 5 mm。♂ 3 mm。
 - 分布：北海道, 本州, 四国, 九州。
 - 産地：菊池溪谷(1♀ 24-V-1979), 八代郡泉村久連子(1♀ 2♂ 5-V-1980, 大塚), 五木村下梶原(1♀ 3-VIII-1980), 上益城郡矢部町内大臣(1♀ 24-VI-1990)

17. *Diaea subdola* O. PICKRD-CAMBRIDGE [= *Misumenops japonicus* (Bös. et STR.)] コハナグモ

○体長：♀ 6～7 mm。 ♂ 4～5 mm。

○分布：日本全土。

○産地：矢部町内大臣 (1♀ 10-VII-1957), 阿蘇郡久木野村清水 (5♀ 4♂ 6-VII-1961, 吉倉), 牛深市戸島 (1♀ 30-VII-1965), 阿蘇郡一の宮町手野 (1♀ 15-VI-1966), 久木野村 (3♀ 2♂ 19-VII-1966, 吉倉), 菊池溪谷 (1♀ 31-VII-1970, 吉倉。 1♀ 24-VI-1979, 大塚。 1♀ 24-K-1981), 天草郡天草町角山 (1♀ 27-VII-1971), 矢部町内大臣 (1♀ 14-VII-1972, 吉倉。 1♀ 1♂ 24-VI-1990, 入江・木下), 北向山 (1♀ 1-VII-1973), 五木村大滝 (1♀ 1-VIII-1982), 五木村平沢津 (1♀ 17-K-1983), 牛深市権現山 (1♂ 8-VII-1990)

Philodromidae エビグモ科

1. *Thanatus miniaceus* SIMON ヤドカリグモ

○体長：♀ 5～6 mm。 ♂ 4～5 mm。

○分布：北海道, 本州, 四国, 九州。

○産地：北向山 (1♂ 5-XI-1972, 吉倉)

2. *Tibellus tenellus* (L. KOCH) シャコグモ

○体長：♀ 8～10 mm。 ♂ 6～7 mm。

○分布：本州, 四国, 九州。

○産地：本渡市染岳 (1♀ 27-VII-1965), 久木野村 (1♀ 10-X-1965)

3. *Philodromus auricomus* L. KOCH キンイロエビグモ

○体長：♀ 7.5～8.5 mm。 ♂ 6～7 mm。

○分布：本州, 四国, 九州。

○産地：牛深市双子島 (1♀ 19-V-1965), 久木野村 (1♀ 3-V-1975), 菊池郡旭志村 (1♀ 2-VI-1989)

4. *Philodromus spinitaesus* SIMON キハダエビグモ

○体長：♀ 5～6 mm。 ♂ 4～5 mm。

○分布：北海道, 本州, 四国, 九州。

○産地：熊本市 (1♂ 27-V-1971, 吉倉), 菊池溪谷 (1♀ 24-II-1980, 大塚), 熊本市本妙寺 (1♀ 1-IV-1984), 五木村 (2♀ 2♂ 3-V-1984)

5. *Philodromus subaureolus* Bös. et STR. アサヒエビグモ

○体長：♀ 6～7 mm。 ♂ 4～5。

○分布：北海道, 本州, 四国, 九州。

○産地：牛深市 (1♀ 22-VI-1959), 久木野村清水 (2♀ 2♂ 7-VII-1961, 大塚。 1♀ 30-V-1965), 牛深市双子島 (1♀ 4-VIII-1967), 南小国町満願寺 (1♀ 5-VIII-1966),

新和町大多尾(1♀ 4-VII-1967), 北向山(1♂ 1-VII-1973), 三角町大多尾(1♀
2-VI-1974), 松島町(1♀ 16-IV-1979), 菊池溪谷(1♂y 24-VI-1979, 大塚),
五木村大滝(1♀ 1-VIII-1982)

3. 参考文献

- 千国安之輔, 1989. 写真・日本クモ類大図鑑. 160 pp., 偕成社.
- 入江照雄, 1985. 天草の真正クモ類. *Calanus*, (9): 1-20.
- 1987. 真正クモ類. 五木村学術調査・自然編, 五木村. pp. 648-660.
- ・西川喜朗, 1982. 菊池溪谷のクモ. 熊本洞穴研究会, pp. 179-185.
- ・斎藤 博, 1987. 熊本県のサラグモ類. *Heptathela*, 3 (2): 14-30.
- 木庭 奏, 1958. 熊本県で見られるクモ(1). *Atypus*, (15): 3-10.
- 1959. 熊本県で見られるクモ(2). *Atypus*, (19): 3-9.
- 小野 勇ほか, 1975. 菊池溪谷道路周辺の昆虫・クモ類の調査. 道路建設に伴う森林伐採の生態系に与える影響に関する研究報告書, pp. 167-188.
- ONO, H., 1977. Thomisidae aus Japan I. Das Genus *Tamarus* SIMON. *Acta arachnol.*, 27(spec. no.): 61-84.
- 1984. The Thomisidae of Japan V. *Boliscus* THORELL, 1981 (Arachnida, Araneae), a genus new to the Japanese fauna. *Bull. natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A* 10: 65-71.
- 1985a. Revision einiger Arten der Familie Thomisidae (Arachnida, Araneae) aus Japan. *Bull. natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A*, 11: 19-39.
- 1985b. Eine Neue Art der Gattung *Misunenops* F. O. PICKARD - CAMBRIDGE, 1990, aus Japan (Araneae: Thomisidae). *Proc. Jpn. Soc. syst. Zool.*, (31): 14-19.
- 1988. A Revisional Study of the Spider Family Thomisidae (Arachnida, Araneae) of Japan. *Nat. natn. Mus. Tokyo*, 252pp..
- ONO, H., Y. M. MARUSIK & D. V. LOGUNOV, 1990. Spiders of the Family Thomisidae from Sakhalin and the Kurile Islands. *Acta arachnol.* 31: 7-19.
- 八木沼健夫, 1956. 日本産真正クモ類概説(カニグモ科). *Atypus*, (10): 25-32.
- 1969. 対島産真正蜘蛛類. 国立科学博物館専報, (2): 79-91.
- 1977. 日本真正蜘蛛類目録. *Acta arachnol.*, 27(spec. no.): 367-406.
- 1986. 原色日本クモ類図鑑. 305 pp. 64 pls. 保育社.
- ・平嶋義宏・大熊千代子, 1990. クモの学名と和名-その語源と解説-. 九州大学出版会, 287 pp..

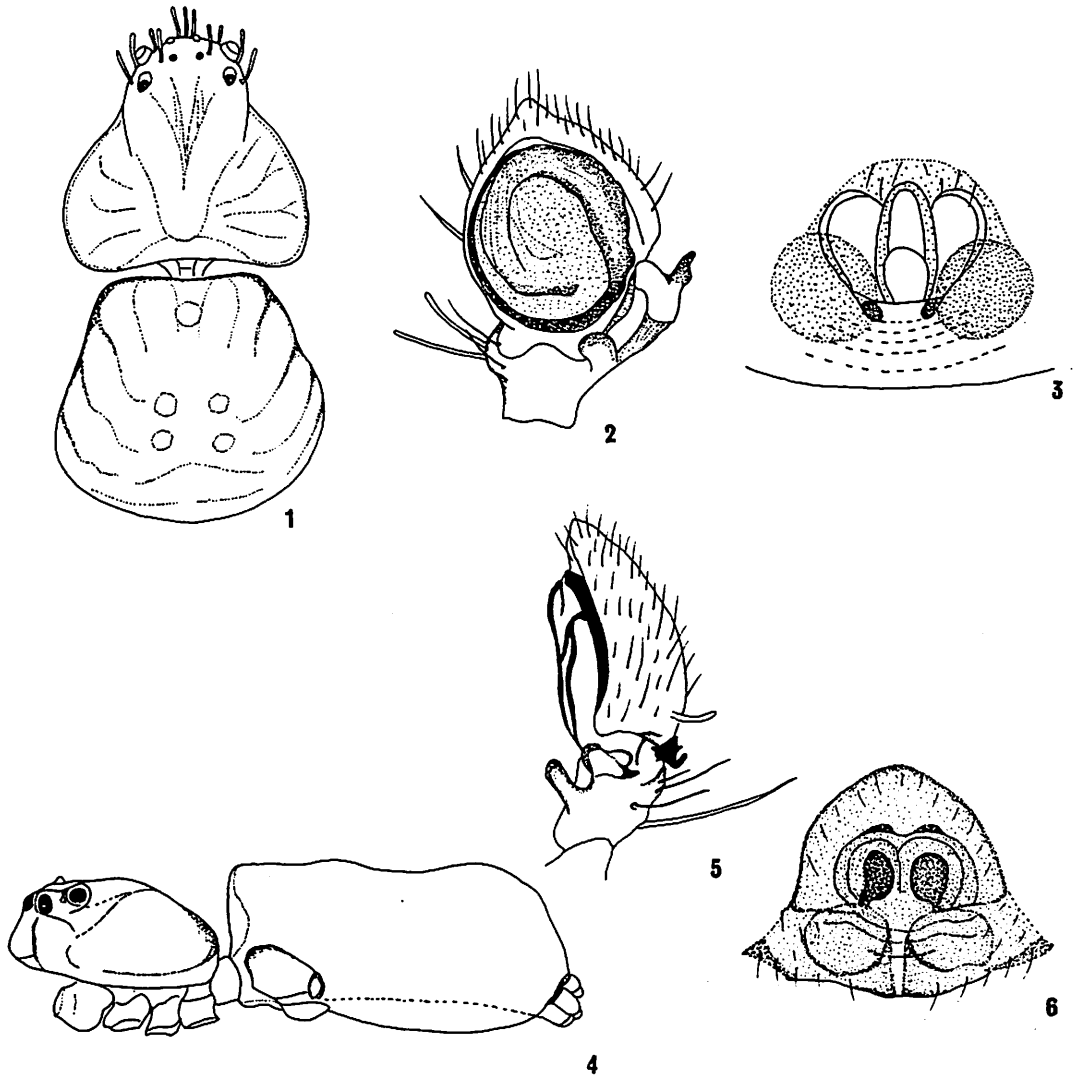


Fig. 1~3. *Oxyptila nipponica* ONO.

1. Body of male from above. 2 Male palp, ventral view. 3. Epigynum
 Fig. 4~6. *Tmarus rimosus* PAIK.

4. Body of female from above. 5. Male palp, lateral view. 6. Epigynum

日本のクモの新記録—*Dyschiriognatha dentata* Chu et Wen
ミナミヨツボシヒメアシナガグモ(新称)—

大熊 千代子
九州大学農学部昆虫学教室

A new record of Japanese spider
—*Dyschiriognatha dentata* Chu et Wen—
Chiyoko Okuma
(Entom. Labor. Kyushu Univ. Fukuoka, Japan)

ヒメアシナガグモ属(*Dyschiriognatha*, Tetragnathidae)のクモは日本からヨツボシヒメアシナガグモ, *D. quadrimaculata* Börs. et STR., 1906 とヒメアシナガグモ, *D. tenera* (Karsch, 1879) の2種が知られている。筆者は屋久島産の本属の1不明種をかねて保持していたが、このほどその種名が判明したので、ここに新記録種として報告する。

Dyschiriognatha dentata Chu et Wen, 1978
ミナミヨツボシヒメアシナガグモ(新称)

D. dentata Chu et Wen, 1978, *Acta Kirin Medic. Univ.* (3): 16-18.
D. sp. Okuma, 1970, *Mushi* 44 (9): 74; Okuma, 1973, *Mushi* 47 (1): 8.

主な標徴: 全体の色彩, 形はヨツボシヒメアシナガグモ(*D. quadrimaculata*)に酷似している。しかし, 本種(*D. dentata*)の雄の触肢(図-3, A. 参照)は盾板が球状で大きく, 指示器末端部の歯状の切れ込みが目立っている(ヨツボシヒメアシナガグモの指示器末端部にも微かな切れ込みが見られる(図-3, B. 参照))。雄の上顎の牙の内側に突起がある。また, 雄の上顎基節には *Tetragnatha* sp. に見られるような末端部の長突起(apophysis)に類するものが全く無い(*D. tenera* また *D. quadrimaculata* には長突起またはそれに類する長大歯がある(図-2. 参照))。雌は *D. quadrimaculata* の雌と酷似しているので, 雌のみでの両種の識別は困難かもしれない。

体長: 雄 2.3~2.6 mm, 雌 2.6~2.9 mm

所検標本: 1♂1♀, 6. X. 1968, 鹿児島県屋久島栗生, 大熊千代子採集; ♂♀多数, X. 1969, 台湾各地の水田, 朱溜沂 & 大熊千代子採集; ♂♀多数, X-XI. 1970, Thai の水田, 大熊千代子採集; ♂♀多数, 1989, Malaysia の水田, 和田節氏採集; ♂♀多数, Bangladesh の水田, 大熊千代子他採集。

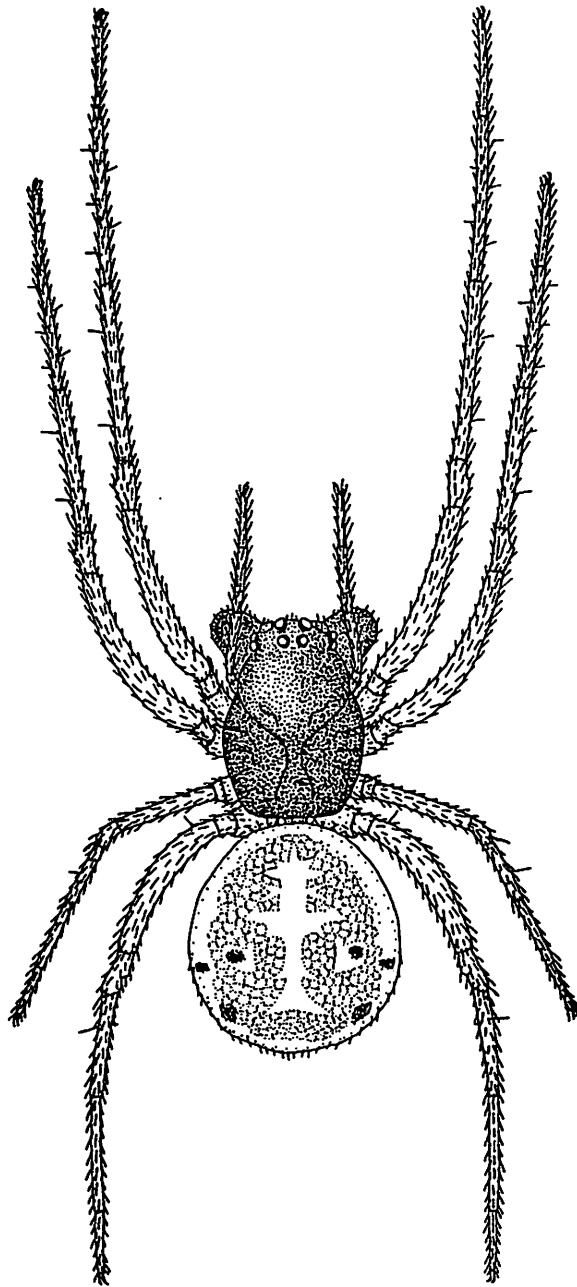
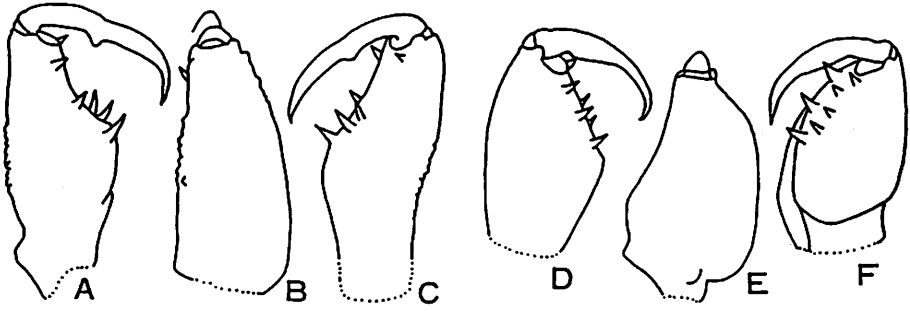
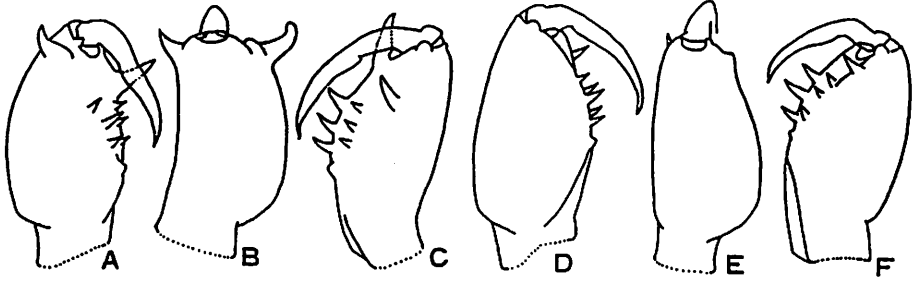


図-1. *Dyschiriognatha dentata* Chu et Wen
ミナミヨツボシヒメアシナガグモ(新称)

Dyschiriognatha dentata Chu et Wen



Dyschiriognatha quadrimaculata Bös. et Str.



Dyschiriognatha tenera (Karsch)

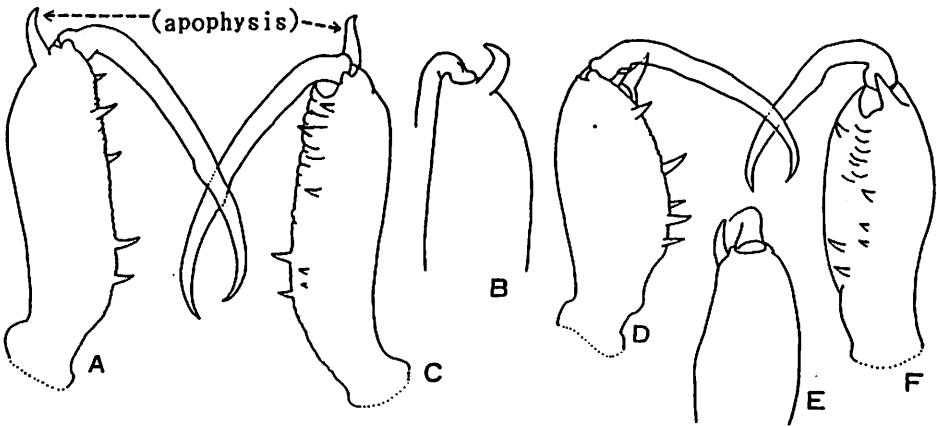


图-2 A, B, C. 雄左上顎 ; D, E, F. 雌左上顎.

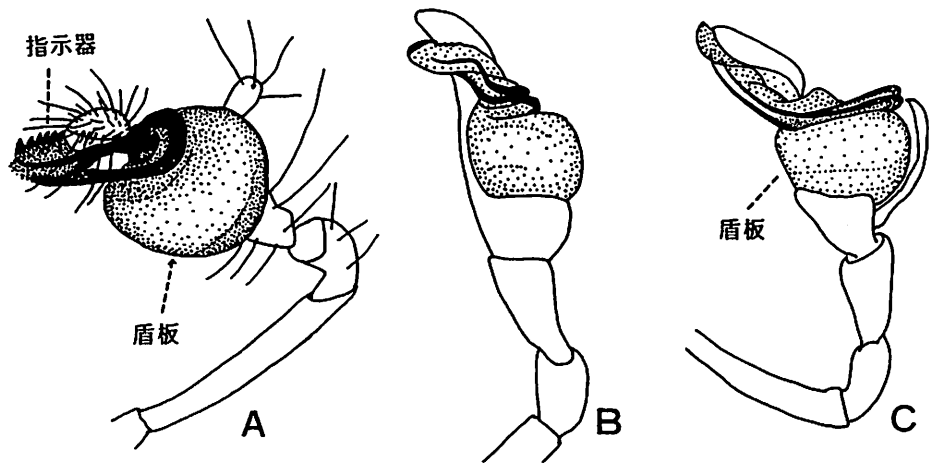


図-3. ヒメアシナガグモ類 雄の左バルブ

A. *Dyschiriognatha dentata* Chu et Wen

B. *Dyschiriognatha quadrimaculata* Bös. et Str.

C. *Dyschiriognatha tenera* (Karsch)

注：本種は1978年に中国の四川省から記載され、中国では四川省と広東省から記録されていたが、筆者の最近の調査によるとバングラデシュ、タイ、マレーシア、台湾、日本（屋久島）などの水田に広く分布していることが分かった。

※ 屋久島からは本属の他にヒメアシナガグモ、*D. tenera* の1♀が採集されている（3.X.1968, 屋久島楠川, 大熊千代子採集）。

末筆になりましたが、マレーシアの貴重な標本をご提供いただきました九州農業試験場の田中幸一博士に御礼を申し上げます。

参考文献

- Chu, C. T. & T. K. Wen, 1978, A new species of genus *Dyschiriognatha* in China. *Acta Kirin Medic. Univ.* (3): 16-18.
- Chu Yau-i & C. Okuma, 1970, Preliminary survey on the spider-fauna of the paddy fields in Taiwan. *Mushi* 44(9): 65-88.
- Okuma, C. & T. Wongsiri, 1973, Second report on the spider-fauna of the paddy fields in Thailand. *Ditto* 47(1): 1-17.

(原稿の送付先)

〒870 大分県大分市東八幡6丁目3-1 (株)イカリテクノス内 九州クモの会事務局

TEL 0975-34-4641

FAX 0975-38-2414

HEPTATHELA VOL. 5, No. 1

1991. 8. 20 発行

編集者 入江 照雄

発行者 吉倉 貞

発行所 九州クモの会

〒812 福岡市東区箱崎

九州大学農学部昆虫教室

印刷所 二豊プリント

大分市岩田町1丁目1-11

HEPTATHELA

- Yaginuma, T. 1~7
Some notes on Japanese zodariid spiders
- Irie, T. 8~14
A list of spiders of the families Thomisidae and
Philodromidae in Kumamoto Prefecture, Japan
- Okuma, C. 15~18
A new record of Japanese spider
-*Dyschiriognatha dentata* Chu et Wen-

THE SPIDER STUDY GROUP OF KYUSHU

Lab. of Entomology, Fac. of Agriculture,
Kyushu Univ.

Hakozaki, Higashi-ku, Fukuoka, Japan